

## 令和 7 年度 第3回遊佐町振興審議会会議録

・開催日時 令和 7 年11月21日(金) 午前 9 時～11 時 36 分

・場所 遊佐町役場 議場

### ■出席委員

齋藤勝広、松本三也、真嶋慎一、松宮竜也、本間優子、大場清悦、東海林和夫、筒井義昭、菅原覚、小野寺ゆり、森元拓、渡邊宗谷、後藤淳子、白旗康子

### ■欠席委員

渡会健、阿部智井、佐藤仁、池田信幸、伊原光臣、榎本真一

### ■町出席者

副町長、教育長、総務課長、産業課齋藤課長補佐兼農業振興係長、地域生活課長、健康福祉課長、教育課長

### ■事務局

渡会和裕、佐藤裕也、高橋愛、石垣美波

### 次第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 会長あいさつ
- 4 会議録署名委員の指名 本間優子委員、大場清悦委員
- 5 協議
- 6 その他
- 7 閉会

### 協議の質疑応答等

(1)基本構想案のパブリックコメントの結果について

質疑なし

(2)基本計画案について

#### 1-1 移住定住

(委員)

IJU ターン促進について、これまで首都圏でのイベントがなされてきた。その施策に遊佐町出身世帯の孫をターゲットにした孫ターンを加えて欲しい。東京ふるさと会の場合や、37 ページにある保育園留学に取り組むとあり、周知の方法を含め孫ターン施策の展開を進めていただきたい。

(事務局)

定住促進につながる事業として、ふるさと会と連携して行っていきたい。ふるさと会会員の高齢化によりこれまでは地区ごとに開催していたが、今年はじめて遊佐町全体のふるさと会を実施した。次年度以降も開催予定。ふるさと会には、大学を卒業したばかりの若者もいる。また、首都圏で開催しているふるさと回帰事業には若い世代が参加しているので、横の連携もしながら孫ターンまで広げていけるか考えていきたい。

## 1-2 交流

(委員)

ふるさと町民登録制度を知らない町民が多く、町外に紹介するために、まずは町民に知ってもらうことが必要だが、その施策はどう考えているか。

(事務局)

ふるさと町民登録制度は国で現在制度設計中であり具体的なところまでは示されていない。国から制度の内容が示された後、町としてどのように取り組むかを検討し、その内容を町民に周知していきたい。

(委員)

遊佐のファンを増やす取組のシティプロモーションに関して、近隣市町のアンバサダーの位置づけがおもしろい。酒田市は無印良品、にかほ市はモンベルなど、大手企業がまちづくりに関わる事例が増えている。

ANAがアンバサダーとして庄内全域を紹介している。今までなかったまちづくりに貢献する企業との連携はとても重要。そういった一手をシティプロモーションに取り入れてはどうか。

(事務局)

シティプロモーションの取組の一つとして、シティプロモーションに特化した地域おこし協力隊の活用を検討している。町でもモンベルや無印良品など関係性のある企業があるので、企業との連携のために話しかけを行い、遊佐ファンの増加につなげていきたい。

(会長)

協力隊は念頭にあったとのことだが、企業と施策を進めることは重要。ただ相手があることでもあるので意識しながら進めてもらいたい。

(委員)

保育園留学という言葉が記載されているが、保育園は学校ではないので留学という表現でよいのか。

(事務局)

保育園留学のネーミングは企業が特許を取っているもの。1～2 週間、地方の保育園・幼稚園に親子で滞在する事業。関係人口の拡大や将来的な移住につなげる取組。

(委員)

県で作成した遊佐町を紹介する教育旅行動画を見て関係者と話したところ、受入施設の人数が限られているため、実現性が低いと聞いた。魅力的な教育資源があるので、受入れできる現実的な体制を検討してほしい。

(会長)

受入れのためには基盤が必要であり、短期的には難しいが、中長期的な取り組みは無いかな。

(副町長)

町の施設としてはしらい自然館で教育旅行を受け入れている。しらい自然館に泊まれる規模の学校に営業に行っている。コロナ以降営業に行けていないので動画を有効に活用し取り組んでいきたい。

(委員)

酒田出身の白崎映美さんのラジオ番組で、遊佐に鮭を見に行くツアーの PR をしていた。そのツアーに関し観光協会や町は関係しているか。今後を考えいろんな企画を展開するときに関係性を築いて大事にしていったらどうか。

(事務局)

ツアーは役場の定住促進係からアプローチして組んだものであり、20 名規模で実施予定。様々な企画を実施していく中で、定住へとつなげていきたい。

(委員)

友好都市や交流都市が 3 つでは少ないと感じる。例えば食のつながりで交流都市を広げていったらどうか。岩牡蠣、お米などを発信していくことで都市交流が盛んになるのではないかな。もう少し遊佐町のものを積極的に PR して、交流人口を増やしていくなど、いろんな分野で交流を広げていくことが大事ではないかな。

(事務局)

遊佐町とハンガリーとの交流は 40 年を経過した。これまでも他地域との交流を広げてはとの意見をいただいているが、実現には至っていない。最近の動きとして庄内空港と台湾のチャーター便復活などもあるので、そのような動きも捉えながら新たな交流先の開拓を検討していきたい。

## 2-1 環境・エネルギー

(委員)

令和 5 年にゼロカーボンシティ宣言を行ったということだが、今年度はどのような取組を行っているか。

(産業課課長補佐)

再生可能エネルギー設備の導入支援、クリーンエネルギー自動車の購入助成、エネルギー

講演会の開催などを実施した。

(委員)

松くい虫防除について、想像以上に被害が広がっている。国から予算を取り出すには町民全体が防除などの活動に参加しているなどの行動をしないと目を向けてもらえない。極端にいうと防風林がなくなるのではないかという危機的状況。住民一人一人が認識を持って取り組んでいかないと大変ではないか。

(産業課課長補佐)

町でも想像以上の被害と認識している。国や県の補助事業以外に町単独でも伐採等を行っている。また、小学校の子どもたちから植林や枝打ちを手伝ってもらったり、地域によっては松の下刈りなどの協力をいただいたりしているので、これからも町民からボランティア作業の協力いただきながら、国や県にも引き続き補助を要望していく。

(委員)

ごみ処理の適正化について、まちづくり協議会単位でごみ処理場見学などを行っているが、町としても取り組んで欲しい。エコ研修でごみ処理場の方から遊佐町はペットボトルの捨て方がきれいだと聞いた。そのような話を聞くともっときれいにしたいという気持ちになる。以前はエコスマイル通信でゴミの出し方や現状を見ていたが今はなくなったのか。

(地域生活課長)

ごみ処理場の視察見学は今年度遊佐地区から要請があり、役場職員が随行して行っている。地区でそのような声があれば相談いただきたい。エコスマイル通信はこれまでエコスマイルゆざという組織で発行していたが、メンバーであった婦人会が解散したことにより組織がなくなった。現在は年数回ではあるが広報にエコスマイル通信として記事を載せており、ゴミの排出量を周知している。

## 2-2 防災・雪対策

(委員)

除排雪について成果指標の自主除雪実施集落数の基準値を見ると、集落の7割が実施しており、集落の狭いところをトラクターを持っている方々が除雪してくれている。離農や高齢化でボランティアで除雪をしてくれる人の確保に苦慮している。区長は頭を下げてお願いしてようやく人員確保しており、これからはそのような集落がもっと増えるのではないか。先日自主除雪の説明会があった時に話したが、除雪時に事故あった場合の補償については、集落での対応とのことだった。燃料費の補助だけでなく、集落の状況を理解いただき寄り添った施策をお願いしたい。

(地域生活課長)

11月に6地区の区長に説明会を実施した。稲川地区から質問があり現状そのような回答としている。自主除雪は平成13年度から実施しており、単価や1集落あたりの上限の引き上げで対応してきた。共助の精神によってお願いしてきたが今後の人手が不足することは見えているので

今後検討していく。また、成果指標で実施集落数を増やすとしているが、見直しを検討したい。

（会長）

共助という話があったが、町任せでも地域に全部押しつけでもいけない。町と地域住民がともに助け合っていく必要があるので、町には体制作りをお願いしたい。

（委員）

自主防災組織は 1995 年の阪神淡路大震災の経験を踏まえ全国で組織化が義務化されたもの。当時から都市部では組織しやすいが地方部では組織しにくいと言われていた。人口減少、高齢化が進む集落で 5 班体制を編成できる集落が何集落あるのか。世帯数が 10～30 が多い遊佐町には適していないと思う。集落内で避難活動を完結させるのではなく、組織の枠を広げ、第 1 次避難場所への避難に特化した組織に変えなければいけない集落もあるのではないかな。

（総務課長）

人口減少、高齢化による自主防災組織のあり方を検討していきたい。三ノ俣集落は金俣集落と一緒に活動をしていて、近隣の集落と一緒にするという考え方もある。意見をいただいた避難に特化した自主防災組織にすることも含めて検討していきたい。

（委員）

東日本大震災後に、地域の防災力を高めるために活動する防災士を、県を挙げて育成してきた経過があり、自主防災組織が弱くなってきている分防災士の役割が大きくなっている。町でも防災士の受講料補助があるが、枠が少なく、1 年に何人になれるのかというところがある。また、避難所運営の点からも女性の防災士を増やすことも必要。町内の防災士の協議会ができたが、女性は少ない。受講料補助の周知、予算の枠を増やすなど、防災士をもっと積極的に育成していくような取組み、資格を取ろうとする動機付けとなるような取組みをお願いしたい。

（総務課長）

今年の 2 月に町内の防災士の皆さんで遊佐町防災士協議会を立ち上げた。防災士は日本防災士機構が認証する資格。協議会は会員のネットワークの充実や防災知識、防災の技能研鑽を支援するために立ち上げた。資格の取得補助の周知に積極的に取り組む。実際に大切なのは災害時に防災士がどのような活動をするかであると思うので、これも含めて検討していく。

（委員）

防災士の育成という文言を取り入れてほしい。

（会長）

基本計画には防災士について記載がない、明記して位置づけても良いのではないかな。

（総務課長）

改めて担当と相談して検討していきたい。

## 2-3 交通安全・防犯

質問・意見なし

## 2-4 道路・交通

(委員)

町中心部と周辺集落を結ぶ公共交通確保だけでなく、酒田市と遊佐町を結ぶ公共交通確保が求められている。町独自または庄内北部定住自立圏構想事業で遊佐・酒田アクセス交通体系の構築が求められていることを提言する。

(産業課課長補佐)

今はデマンドタクシーとスクールバスがメインとなっているが、提言を検討していく。庄内北部定住自立圏構想でも検討できるようにしていきたい。

(会長)

近隣市町村とも連携し、地域交通の幹となるよう検討いただきたい。

(委員)

町民の役割に道路破損個所の連絡とあるが、町で修繕する基準があるのか。

(地域生活課長)

修理基準の具体的な数値化はされていない。陥没・穴があって車や歩行者にどういった影響があるか見た目での判断となる。陥没時は掘って確認することもある。区長の皆さんから連絡いただくことが多いので、発見したら連絡をいただきたい。道路作業員が2名体制で毎日パトロールしている。町の公式 LINE でも報告できるので登録して報告いただきたい。

(委員)

報告した時は報告した人にフィードバックいただきたい。

(地域生活課長)

現在 100%対応はできてはいない。区長から連絡いただければ区長に連絡する。

## 2-5 上下水道

(委員)

人口減少で料金を負担する人が減っており、水道の維持に非常にお金がかかるのではない。洋上風力の基金を水道の整備に充てるような考え方はどうか。町全体が洋上風力発電のメリットを享受することで理解が深まるのではない。これからの話だが検討に加えていただきたい。

(産業課課長補佐)

洋上風力の地域貢献の基準を確認しながら進めていく。

## 3-1 商工業

質問・意見なし

### 3-2 農林水産業

(委員)

地球温暖化のせいか、シカ、クマ、イノシシの出没が増えており耕作を断念する農家も増えている。農地が荒れることがクマが出没する要因ではないとも言われている。これらは消滅する集落、自治体への大きな引き金になると言われている。国県と連携してとあるが、鳥獣被害対策にふるさと納税を充てている自治体があるとの報道もあった。クマだけで無く鳥獣による食害対策もしっかり行ってほしい。

(産業課課長補佐)

今年はブナの凶作でクマ出没件数が今までに無く増えている。鳥獣の被害対策については電気柵の設置のほか、不要果樹伐採への補助を県補助だけでなく町単独でも行っている。農地が荒れることでクマ・イノシシの経路となる。これ以上農地が減らないように新規就農者の確保にも務めながら、農業政策を進めていきたい。ふるさと納税の活用は承知している。町単独財源だけでなく様々な財源を確保して進めていく。

(委員)

遊佐ブランドの推進を力強く進めて欲しい。岩牡蠣、米がおいしいので吹浦の岩牡蠣、遊佐の米を買ってくれる人がいる。高くても買う人はいるので PR とブランディングがうまくいっていないのではないかと。収益力を上げるには行政と生産者と地域が一体となって本気で進めていくことが大事。キャッチフレーズ、ロゴマークなどを作りブランド力を高めていくには、大企業や専門のコンサルタントとの連携も必要。町の誇りにもつながっていくことなので、是非進めてもらいたい。

(産業課課長補佐)

ブランド力を高めるために様々な方と連携して、6次産業化を進めていきたい。

### 3-3 観光

質問、意見なし

(会長)

後半の分野が残っているが、本日は委員のみなさんから積極的に意見いただいた。必ずしも基本計画に文言として盛り込めないこともあるが、考えや思いは伝わったと思う。町も実施計画や施策実施の際に、意見を踏まえて行って欲しい。

(3) 今後の予定について

質問・意見なし